



外来案内

受付時間
初診 午前8時30分～午前10時30分
再診 午前8時30分～午前11時00分
平成22年4月1日現在

診療科名等	初診(受診歴なし)	再診(受診歴あり)	備考
消化器内科(1内)	月(火) 水 木 金	月 火 水 木 金	胆・脾のみ予約
循環器内科(2内)	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
呼吸器内科(2内)	月 水 木 金	月 水 木 金	
糖尿病・内分泌内科(3内)			
糖尿病	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
内分泌・甲状腺	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
高血圧	月 水 木 金	月 水 木 金	
腎臓内科(3内)			
腎臓病	月 水 木 金	月 水 木 金	
リウマチ・膠原病	月 水 木 金	月 水 木 金	
神経内科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
血液・腫瘍内科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
小児科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
精神科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	初診は完全予約制
皮膚科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	形成は月のみ
消化器外科(1外)			
上部消化管	月 水 木 金	月 水 木 金	
下部消化管	月 水 木 金	月 水 木 金	
肝・胆・脾	月 水 木 金	月 水 木 金	
ストーマ外来			(金)
乳腺・内分泌外科(1外)			
乳腺・内分泌・甲状腺	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
心臓血管外科(2外)	火 水 木 金	火 水 木 金	
呼吸器外科(2外)	火 水 木 金	火 水 木 金	
小児外科(2外)	火 水 木 金	火 水 木 金	
一般外来	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
整形外科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
脳神経外科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
麻酔科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	火・木は漢方外来
産婦人科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
泌尿器科	火 水 木 金	火 水 木 金	
眼科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
頭頸部・耳鼻咽喉科	月 火 水 木 金	月 火 水 木 金	
放射線科	火 水 木 金	火 水 木 金	
歯科口腔外科	月 水 木 金	月 火 水 木 金	

○は予約のある方のみ □は紹介状を持参された方のみ

「紹介状(診療情報提供書)」持参のお願い

本院は、主に高度な医療サービスを地域に効率よく提供することを目的とした「特定機能病院」として承認されており、原則として他の医療機関(病院・医院・診療所)から本院あての「紹介状(診療情報提供書)」が必要となります。

外来の混雑により重症の患者さんや緊急の患者さんへの対応に支障が生じていることから、平成22年4月1日より、一部診療科(呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、産婦人科、泌尿器科、頭頸部・耳鼻咽喉科)における初診の方の診療については、紹介状持参患者さんのみを対象とすることといたしました。整形外科、眼科においても、曜日によっては、紹介状をお持ちでないと受診できないこともあります。

また、かかりつけ医からは、外来予約ができます。血液・腫瘍内科、放射線科については、他医療機関からの紹介予約診療のみしか行っておりません。患者さんからの直接の初診予約は、受け付けていませんが、完全予約制の精神科は、初診予約をお取りください(予約変更センター 055-273-9264)。

外来案内をお確かめのうえ、ご来院ください。

なお、一部診療科については、紹介状等をお持ちでなく直接来院された場合でも受診いただけますが、診療料金の他に、初診に係る費用として2,625円をご負担いただきますのでご了承ください。

本院の「特定機能病院」としての使命をご理解いただき、「紹介状(診療情報提供書)」をご持参のうえ受診していただきますようご協力をお願いいたします。

各診療科の初診及び再診の診療日は右記のとおりです。



よつ葉ルームから「こんにちは赤ちゃん」

3階東病棟 看護師長 花輪 ゆみ子

平成22年2月21日、国立大学病院で初めて設置した院内助産「よつ葉ルーム」で、元気な赤ちゃんが誕生しました。院内助産とは、助産師が中心となって妊娠から出産、産後までを、ご夫婦のバースプランに沿って継続的なケアを提供していくシステムです。妊婦さんの「産む力」と赤ちゃんの「産まれる力」を最大限に活用し、私たち助産師が手助けすることで、安心・安全・満足な「お産」を支えています。「よつ葉ルーム」という名前には、妊婦さん、ご主人を中心としたご家族、赤ちゃん、そして、私たち助産師の4つのハートで命を支えるという意味があります。合併症や今までの妊娠分娩歴で

異常がなく、妊娠経過が順調で、できるだけ自然に自分の力でお産したいと思っているご本人の希望とご主人の同意が必要となります。

詳細は、産婦人科外来または、産科病棟助産師がご説明しますので、気軽に声をかけて下さい。お母さんと赤ちゃんの命を守るとともに新しい家族の誕生を支援し、満足できる「お産」の提供を医師と協働して、目指してまいります。



よつ葉ルームはじめての赤ちゃんです

肝臓の病気とは、

まずは肝炎ウイルス検診、病気がみつかったら一度は専門医へ

やさしく
教えて!
第5回

肝臓の病気というと、お酒と聞いていませんか。よく、「あの人はお酒も飲めないのに肝臓がんで亡くなって」などという話をよく聞きます。実は、わが国では治療が必要な肝臓の病気の8割はB型肝炎やC型肝炎といった肝炎ウイルスに関連する病気です。

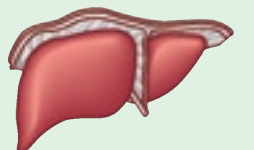
特にC型肝炎は、「C型肝炎ウイルス」が感染しておこりますが、一旦感染すると自然に治ることはまれで、何十年という感染の結果、肝硬変や肝がんに進展することがわかっています。しかもこのウイルスは血液によって感染しますが、このウイルスが発見される1989年よりも前に輸血や大きな手術を受けた方々は自分でも気づかないうちに感染している可能性があります。とくに山梨県は、かつての地方病である日本住血吸虫症の治療の際にC型肝炎ウイルスが蔓延したとされ、全国的に見てもC型肝炎の患者さんや肝臓がんの患者さんが多いことが知られています。さらに、肝臓は「沈黙の臓器」といわれ、病気がかなり進まないで自覚症状がないため、進行した状態ではじめて病気が発見されることが多々あります。そこで、現



在は、この肝がんと関係する肝炎ウイルスに感染しているかどうかを調べることを目的として、健康診断の際に「肝炎ウイルス検診」が始まっています。

また、C型肝炎は、病気が進行していなければ「インターフェロン」といったお薬で治すことが可能になっています。かつてはインターフェロンの効きは非常に悪いものでしたが、最近治療法の進歩によりかなりの確率でウイルスを体内からなくすることが可能になりました。しかし、インターフェロンは副作用もありますし、非常に高価です。

そこで、国は、肝臓病の診療の中心となり、地域の先生方や患者さんへの情報提供をするための「肝疾患診療連携拠点病院」を各県に設置し、山梨県では私たちの病院がこの指定をうけました。これにより、本院には「肝疾患センター」が設置されています。「肝疾患センター」では、患者さんへの情報提供、診療相談、地域の先生方や保健師・看護師さんを対象とした講習会を開催しております。まずは肝炎ウイルスに感染しているかどうかを検査し、もし感染していたら、一度は専門医にご相談ください。



整形外科科長就任のご挨拶 波呂 浩孝



昨年10月1日付で、濱田前科長の後任として整形外科科長に就任いたしました。

整形外科は頸部から体幹、四肢まで幅広い守備範囲を有し、脊椎脊髄・骨軟部腫瘍・手の外科・関節・外傷・小児整形など多岐の疾患に対応しております。昨今の長寿化に伴い、脊椎・関節疾患は顕著に増加し、生命的な寿命だけではなく、健康寿命という概念ができ、日常生活に介護を必要としない自立した生活が可能である生存期間をできるだけ長くすることが重要視されています。

また、世界保健機関(WHO)が2000年から2010年までを運動器の10年と呼んで、世界各国で連携して運動機能障害からの開放を目指し、終生健やかに身体を動かすことが可能な生活と人生の質の向上を目指す社会づくりが進められています。日本では、日本整形外科学会が中心となって運動器疾患を克服して要介護の状態を減らす運動を進めています。当科でもリハビリテーション部と連携して予防医学に力を入れていきます。

また、脊椎、関節、手の外科、腫瘍などのあらゆる分野で未解決な病気の原因を探求し、新しい検査や低侵襲治療、新手術の開発に励んでいきます。

今後は地域医療と研究、教育の発展に邁進する覚悟でございますので、よろしくお願い申し上げます。

産婦人科科長就任のご挨拶 平田 修司



昨年12月に産婦人科科長に就任いたしました平田修司です。私は1986年(昭和61年)に本学を第1期生として卒業し、その後、当産婦人科で勤務してきました。

本院産婦人科には4つの診療グループ、すなわち、端晶彦准教授、奈良政敏講師が牽引する婦人科腫瘍グループ、笠井剛准教授を責任者とする生殖医療グループ、奥田靖彦特任准教授を責任者とする周産期グループ、大森真紀子講師を筆頭とする女性医療グループ、があり、それぞれの分野の外来・入院診療を責任持って行っております。各診療グループでは、最先端の知識および技術を導入して、ひとりでも多くの患者さんに最高水準の産婦人科医療を提供することを目指しています。

なお、当産婦人科は山梨県の産婦人科医療の維持のために県内の多くの病院に人的協力を行っており、大学病院自身の人的陣容は決して十分ではありません。そのため、外来ならびに入院診療に一定の制限を設けておりますことをご理解いただきたく存じます。

私たちは、地域の産婦人科医療のため、今後とも全力を尽くします。皆様方の温かいご支援ご協力をいただけますようお願い申し上げます。



血液・腫瘍内科科長就任のご挨拶 桐戸 敬太



平成22年1月に、血液・腫瘍内科科長を拝命いたしました桐戸敬太と申します。私は、身延町(旧下部町)の出身で、甲府西高校の卒業生です。昭和63年に自治医科大学を卒業し、山梨県立中央病院で研修を行った後に山梨赤十字病院に4年間勤務しました。その後、自治医科大学や栃木県立がんセンターなどを経て、平成17年より山梨大学に勤務いたしております。

さて、血液・腫瘍内科という名前をみると、どうしても“腫瘍”の二文字が気になるかもしれません。ちょっと怖いイメージがあるのでしょうか。でも、そんなことはありません。血液の分野では、ここ10年ほどで抗体薬や分子標的薬などの全く新しい治療薬がたくさん登場し、目覚ましい効果をあげています。病気によっては、7、8年前まで治療が難しかったものが、今では内服薬で90%以上の方がほぼ治ってしまうものさえあります。副作用を防止する薬剤も進歩しています。私たち血液・腫瘍内科は総勢6名と小さな教室ですが、山梨県における血液病診療の拠点として、これらの最新の治療を山梨県の皆様に提供できるように努力していきたいと考えております。

今後ともよろしく願いいたします。



ヴァンフォーレ甲府の医学部グラウンドの使用開始！



挨拶する前田学長

去る3月2日、新装なりました山梨大学医学部のグラウンド開きとなる、グラウンド使用開始の式典が挙行されました。

前田学長、海野ヴァンフォーレ甲府社長のご挨拶に続き、華やかにテープカットが行われ、続いてヴァンフォーレ甲府の選手による全体練習が開始されました。

医学部学生の授業は、甲府キャンパスで行われるため、グラウンドはこれまで、主に教職員や学生の課外活動に使用されておりました。

ヴァンフォーレ甲府と山梨大学は、医学部キャンパスグラウンドを活用した教育・研究の活性化と地域におけるスポーツの振興・地域貢献を目的とする覚書を昨年10月30日付で締結いたしました。

この覚書には、医学部キャンパスグラウンド及び関連施設をヴァンフォーレ甲府が整備したうえで

大学に寄贈し、山梨大学は学生の教育や課外活動のために、ヴァンフォーレ甲府にはオールシーズン使用可能な新たな練習場として、また両者が協力して社会貢献事業を行う、といった内容が盛り込まれております。こうして整備された環境が、患者さんの癒し空間となることに大きな期待を寄せています。

医学部グラウンドの使用もあつてか(?)ヴァンフォーレは快進撃を続けており、5月15日現在、2位です。この美しいグラウンドで存分に練習し、今季こそJ1に昇格を！

事務部長 白沢 一男

ヴァンフォーレ!!



病院機能評価 Ver.6 認定！！

看護部長 鈴木 久美子

本院は、財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を平成11年にVer.3を初めて受審し、今年3月に3度目となるVer.6の認定をうけました。その証である認定証が外来正面玄関に掲示してありますので、ぜひご覧ください。

病院機能評価は、評価機構が開発した評価基準に照らし合わせて、複数の評価調査者が病院の機能を評価する、いわゆる第三者評価です。5年毎に更新が義務付けられています。実際に本院がうけた審査は、約2.5日間を要し、7領域(①病院組織の運営と地域における役割、②患者さんの権利と医療の質及び安全の確保、③医療環境と患者さんへのサービス、④医療提供の組織と運営、⑤医療の質と安全のための取り組み、⑥病院運営管理の合理性、⑦精神科に特有な病院機能)の評価項目は352項目、7名の調査者が書類の確認と面接調査、病院内全ての部署の訪問審査でした。この訪問審査をうける2ヶ月前に書面による審査をうけ、書面審査と実際の訪問審査の結果により「認定」か「保留」かが決定されます。「保留」と決定された病院は、評価機構から改善要望事項が提示され、その項目が改善した段階で再審査をうけ、改善が確認された場合に認定証が発行されます。本院は一回で「認定」され、その割合は20%と言われています。この貴重な「認定」をうけることができた勝因は、病院長のトップマネジメントはもちろんですが、職員同士のチームワークの賜物だと思います。

今回のVer.6は、地球環境への配慮、継続的改善、情報システム機能、院内暴力の対応の4点が新規に追加されています。病院機能評価をうける利点は、評価をうける準備が改善のきっかけになる、改善すべき問題点が明らかになる、職員の自覚と改善意欲が向上する、患者さんからの医療における信頼を得ることができることです。

今後も、この「認定」に甘んじることなく、職員一同協力体制を万全にし、患者さん一人ひとりにとって安全で、最高の医療・看護を提供できるように改善に取り組んでいきます。



食材の組み合わせは大丈夫ですか

栄養管理部 荒川 元喜

「食べ合わせ」についてご存知ですか。

古くから体調に影響を及ぼす食べものの組み合わせを「食べ合わせ」と言ってきました。その「食べ合わせ」が、栄養の吸収を促進したり、阻害したりします。

栄養学的には、疲労回復に「豚肉にタマネギ」(ビタミンB1+硫化アリル)、貧血の改善に「牛ヒレ肉にレモン汁」(鉄分+ビタミンC)、骨密度の改善に「高野豆腐に干しいたけ」(カルシウム+ビタミンD)、抗酸化作用に「緑黄色野菜の油炒め」(ビタミンA+油脂類)、塩分の排出に「カリウム」(生の野菜や果物)、有害物質の排出に「食物繊維やビタミンC」(野菜類や果物類)などの組み合わせが挙げられます。



また、注意が必要となるものとして、添加物としてリンが大量に含まれることが多い調理済みの加工食品を過剰摂取することにより、カルシウムがリンと結びつき、カルシウムの吸収が阻害されることが知られています。

いずれにしても、食材の組み合わせだけで症状が改善したり、塩分や有害物質のすべてが排出されたりするものではありません。あくまでも、作用の上のことであるため、何か一つの栄養素・食べ物に偏らず、いろいろな旬の食材を幅広く食べることが重要となってきます。

栄養管理部でも、いろいろな食材の組み合わせを考慮し、調理、配膳しております。

